

5月14日、好天の中、全59チームが参加し、第7回みなと公園Eボート大会が開催されました。今年も、約40人の中学生がボランティアとして大会運営に協力しました。どの生徒も受け持った役割に熱心に取り組んでくれたおかげで、大会を円滑に進行することができました。大会関係者からは、「本当によく働いてくれてありがとう。」とねぎらいと感謝の言葉がかけられました。

中学生のボランティア活動は、この他にも、いろいろな行事やイベントでも広く行われており、ボランティアの心が育っていると感じます。

このボランティアの心が育まれているのは、中学生だけではありません。町内を見渡せば、さまざまな所でボランティアの心が発揮されている姿があふれています。地域の行事や清掃活動、ゴミ回収に関わる活動など、子どもから大人まで、多くの町民が協力して進められている姿が多く見られます。また、学校の支援や福祉関係のボランティア活動にも、多くの人が参加しています。

さらに、ボランティアの心でささえ合う素敵な笠松町にしていきたいでしょう。



Eボート大会での中学生ボランティア



昨年度の「トンボ天国クリーン大作戦」

募集 7月9日(日)午前8時～ トンボ天国クリーン大作戦

大切な自然の財産を守るため、環境美化活動にご協力いただける方はトンボ天国にお集まりください。皆さんの参加をお待ちしています。

かさまつ民話「昔むかし」

どんぐりがゆ②

「他村へ米を売つちやあらんと。」

「米があつたら笠松の本町へ売れとさ。」

「かゆもすすれんわつちらにとつて、米など売れるはずがなかるうがや。」

「白いめし食つてござらつしやるお代官さまじゃあ、わつちらのことはわからんて。」

「どうすりやいいんやこのはらへりを。」

水をかぶり、花もつけない稲をみつめて村人はわめきたてた。でも、村人の中にこの困りはてたようすを、お陣屋さまに訴えでる勇気のある者はいなかった。

ただ、心ある庄屋さまが笠松のお金持ちと二緒になつて、かゆのほどこしをしただけであつた。

その頃、となり村の伊助が、米ぬかのかゆを食つてからだ

がはれ、狂い死んだといううわさを久平は聞いた。それ以来、田代村では、お代官さまが二日一回かゆのほどこしをはじめたということであつた。しかし、久平のいる南船原村へは、お年貢を免ずるというお達しさえなかつた。



「おかあちゃん、おかわり。」

「とうちゃん、おかゆ食べんの。」子どもたちの元気な声に久平は、わずかばかりの玄米とよもぎの浮いたかゆを口にした。水一升に玄米一合、これを二日二度が食事であつた。

(つづく)

かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。